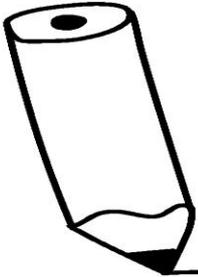


鳴門教育大学 生徒指導支援センター 教材リーフレット  
平成 13 (2001) 年 3 月作成



## ドラえもんといじめ

- ◆ 本教材は、国立大学法人鳴門教育大学の山下一夫理事・副学長が、平成 13 (2001) 年 3 月に作成されたものです。
- ◆ この資料では、漫画「ドラえもん」の主要な登場人物に触れながら、子どもの心について述べられています。この文章をもとに、児童生徒・保護者・教員の皆さんが、いじめ・人間関係・自分の生き方等について考えて欲しいという願いが込められています。
- ◆ なお、本教材をご活用いただいた際は、簡単で結構ですので、お気づきの点や児童生徒の皆さんのようすについて、メール等でご連絡いただけるとありがたいです。よろしく願いいたします。

《 本教材に関するお問い合わせ先 》

鳴門教育大学 生徒指導支援センター 阿形 恒秀

TEL : 088-687-6381 FAX : 088-687-6500

E-mail : ssgc-ctr@naruto-u.ac.jp

〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島 748

鳴門教育大学 生徒指導支援センター

## ドラえもん と いじめ

皆さんがよく知っている、藤子・F・不二雄の『ドラえもん』を例に、子どもの心と教育について考えていきたいと思います。

「藤子・F・不二雄」こと藤本弘さんは、1933年(昭和8年)に生まれ1996年(平成8年)に亡くなりました。『ドラえもん』は1969年より連載され、単行本は小学館てんとう虫コミックスから出版されています。

## (1) ジャイアン

ジャイアンはのび太に対しふざけているだけで、本当に2人は仲が良いのでしょうか？ ジャイアンはのび太に対し悪気などまるで意識していないかもしれません。仲良く遊んでいることもあります。しかし、暴力を背景にした上下関係は明らかであり、のび太はつらい思いをしています。教師はジャイアンのいじめや乱暴な行為を見すごしてはいけません。教師の人権感覚が問われているのです。実際、一見したところ親しい友人関係やグループに思えても、その中でいじめが発生している場合はよくあることです。

ジャイアンの母は彼をよくしかり、げんこつを与えています。彼の父はほとんど出てきませんが、たまに出てくると力自慢の乱暴者です。つまり、いじめっ子自身がいじめられっ子であり、ストレスがかかっています。教師はいじめ行為を許してはいけませんが、いじめっ子や乱暴な子を嫌ってもいけません。いじめっ子の心理的背景にも関心を向け、生徒指導を行わねばなりません。

たとえば、いじめっ子（ジャイアン）に、いじめられっ子（のび太）の気持ちや感情を想像するようにと話しても、いじめっ子にはいじめられっ子のつらい気持ちがなかなか理解できないことがあります。このようなとき、教師がいじめられた子どもの気持ちを力説すればするほど、いじめっ子は自分の殻（から）に閉じこもっていきます。そうならないためにも、教師はいじめっ子の気持ちも共感的に理解するように努めなければなりません。いじめっ子が実はいじめられっ子であった、ということはよくあることです。人は自分の気持ちや感情が他人に理解され受け入れられているという思いがあるからこそ、他人の気持ちや感情を理解し受け入れることができるのです。

ところで、映画のジャイアンは乱暴だけど思いやりのある子どもであり、のび太やスネ夫たちとともに仲の良い友達どうしです。まさに映画のように、大人は子どもたちが活躍できる広々とした空間を用意し、長い時間をかけて子どもたちを見守ることが大切です。

## (2) のび太

相手のことを思いやるのび太のやさしい性格はとてもすばらしい（のび太にとって幼稚園のころまで同居していたやさしいおばあちゃんの存在は大きいと思います）。しかし、勉強やスポーツができず、ドラえもんがつねに味方についているのでねたみの対象になっているなど、いじめられやすいタイプといえます。

まず、「暴力やいじめは許されない。親や先生たちはあなたを守る」と、いじめられている子どもの感情を受け入れ安心感の回復につとめることが大人として何より大切であり、いじめられている子どもが一人で悩むことがないように、保護者も教師も子どもの発する危険信号を敏感に察知し、子どもの立場に立って最後まで守っていくべきです。

いじめられている子どもの側にもいじめを誘発（ゆうはつ）している場合があります。しかしだからと言って、いじめられている子どもに、「なぜいじめられるのかあなたも反省すべき点があるでしょう。ドラえもんにたよらず勉強しなさい」などと決して指摘してはいけません。このような教師の心ない言葉は、子どものいじめられて傷ついた心に塩をぬることになります。

何よりいじめは悪いことで許されないということこそ大事です。そして、継続して子どもの話を聞き、その子どもと教師の間である程度の安心感と信頼感が築（きず）けるようになってから、つまり好ましい人間関係が築けてから、例えば「クラスの人達はあなたのことをどのように思っているんだろう」とか、「剛君（ジャイアン）やスネ夫君といて楽しいときはどんなとき。逆に嫌なときは。あなたがどのように対応したらいいか、一緒に具体的に考えていこう」などと話しかけ、クラスの他の子どもとの人間関係の持ち方を、結論を急がずに2人で一緒に考えていけばよいのです。

のび太がジャイアンたちにいじめられても彼らと一緒に遊ぶように、いじめられている子どものなかには、教室や学校で孤立するのが耐えられず、自分をいじめる子どもたちのグループに属していることもよくあることです。人がいない所で独りぼっちでいるより、人が大勢いる所で相手にされず独りぼっちでいる方がつらいものです。保健室やスクールカウンセラーの相談室が、このような子どもたちの「心のオアシス」になりつつあります。

### (3) スネ夫

いじめ集団を、いじめっ子（加害者）・いじめられっ子（被害者）・いじめをはやしたておもしろがって見ている子どもたち（観衆）・見てみぬふりをしている子どもたち（傍観者<sup>ぼうかんしゃ</sup>）の4つに分類することがあります。あるいは、いじめられている生徒といじめている生徒、そして共謀者<sup>きょうぼうしゃ</sup>と傍観者をあげることもあります。

このいじめの共謀者といえるのがスネ夫です。金持ちでブランド志向<sup>しこう</sup> だけど、彼はおけいご事に忙しく、寂しがりやです（どうでもいいことですが、スネ夫には弟がおり、弟のスネツグはニューヨークに住んでいます）。ジャイアン<sup>ジャイアン</sup>の暴力をかさにきてのび太をいじめることにより、孤独感をまぎらわしストレスを発散しており、まるで「虎の威をかる狐<sup>とらのいをかるきつね</sup>」です。

スネ夫は他人の評価や物事の結果を非常に気にするタイプであり、先生の前ではいい子で、大人の顔色に敏感<sup>びんかん</sup> です。そして、自分のことを自慢し他人の欠点を指摘することにより、自尊心を守っています。スネ夫のような子どもに対し、特に問題行動が表面化するまで、積極的にかかわろうとしない教師が多いのではないのでしょうか。

しかし一方、スネ夫のような子どもが好きになれず、いい子の仮面や化<sup>は</sup>けの皮を剥<sup>は</sup>がし、いつわりの自尊心を壊そうとする教師もいます。このような教師は、スネ夫に物ではなく心の大切さに気づき、裏表のない人間になってもらいたいという気持ちから、スネ夫の問題点を指摘しているのかもしれませんが。けれども、教師とスネ夫の間に心の交流がなければ、自尊心はすぐに再建できません。

大人が焦ってはいけません。スネ夫に対し(のび太やどの子どもに対してもそうですが)、大人は「失敗してもいいんだ。試行錯誤してみよう」というおおらかな気持ちで接する必要があります。また、スネ夫は大人をよく観察しているので、大人は子どものモデルとして、心の内面に魅力のある人間かどうかが問われています。

ところで、スネ夫はジャイアンたちと一緒に遊んでストレスを発散しているからまだいいようなものの、小学生の頃から毎日のように習い事に行き友達とも積極的に遊ぼうとしないなら、遅かれ早かれ「いい子の息切れ」を起こすことは必然です。

#### (4) 出来杉

出来杉(できすぎ)は勉強をはじめ何ごともよくできますが、のび太とジャイアンの関係に対し見てみぬふりの傍観者です。このタイプの子どもたちは、教師・学校が本気でいじめ問題に取り組んでいるのかどうかということに対して敏感です。彼らの正義感を信じ、個別のいじめ問題として取り組むだけでなく、道徳教育や人権教育の視点からクラス全体、場合によれば学年全体や学校全体の問題として取り組む必要があります。さらに、保護者とともにいじめ解決に向けて一緒に立ち上げられるかという点も大切です。

しかし、建前だけのきれいごとで終わるいじめの解決策や道徳教育では、子どもの心は動きません。一つの正義を押しつけるような人権教育では、子どもの心は逃げていきます。いじめや暴力行為は許さないという毅然(きぜん)とした態度が教師には要求されています。それとともに、人間の心の中にはやさしい気持ちや荒々しい気持ちあるいは正義感や嫉妬心(しつとしん)など様々な感情があることにきづいたうえで、自分自身や他人を認めることができる心が育つように、子どもたちを見守る温かくて長い目が教師には要求されています。

また、子どもたちは教師どうしの人間関係について、大人が思っている以上に敏感です。教師集団としてのまとまりに欠け、自分の担任以外の他のクラスや学年に無関心であったり見てみぬふりを教師がしているなら、子どもたちは「公」の世界で傷つかないようにやりすごし、自分たちの「私」の世界に閉じこもろうとします。

ところで、出来杉のような「いい子」がたくさんいる有名な進学校で、教師の思いもよらぬ陰湿(いんじつ)で深刻ないじめがおきていることがあります。受験の圧力のなか、できるだけ煩(わづら)わしいことにかかわらず効率よく勉強しようとする考えが、教師にも生徒にもあります。受験のストレスを発散するための軽いいじめが、止める人がだれもいないのでエスカレートし、いじめられている子どももプライドが高くてなかなか人に打ち明けられず、深刻な事態になっていることがあります。

#### (5) のび太の先生、ドラえもん

のび太の先生は熱心だけど、皆の前でのび太の成績や態度を怒ってばかりいます。これではのび太のプライドを傷つけ、先生までもが生徒をいじめていることになります。そして、ジャイアンやスネ夫の行為をふざけている程度と思い、いじめと認識していません。子どもの心を受け入れず、弱点や欠点を指摘し、厳しいだけの指導やしつけをするのは危険です。実際、子育てを母親だけにまかせて、子どもと遊ぼうとはせず、たまに子どもを前にすると叱っているような父親なら、いないほうがまだと思われても仕方ないかもしれません。

いじめは相手の弱点を突いてきます。それとは逆に、お互い相手の良いところを見つけだすことは、いじめの防止につながります。教師が個々の生徒の良いところを見つけだすことは教育の基本ですが、ゲームの形式で生徒どうしが互いの良い所を見つけだすことを実施している教師もいます。ほめ上手は、子どもを成長させます。

ドラえもんはのび太のことをよく理解しており、二人の信頼関係はすばらしい。のび太にとって、ドラえもんは安心基地です。しかし、何でも与えることによってかえってのび太の自立を妨(さまた)げています。子どもの心を受け入れることは何より大切ですが、やさしさだけでなく指導やしつけのための厳しさも必要です。

児童生徒はある程度自立しているという前提のもと、学校教育は行われています。しかし、自立面で問題があると思われる子どもは、例えば保護者にスキンシップ（依存）しなおしたりして、再びやすらぎを得て自立のためのエネルギーを補給する必要があります。過保護で甘やかされて怠(なま)けているときめつけたり、強引に自立させようとするのは間違っています。自立のための手立てを考える前に、やすらぎは与えられているか、心の居場所はあるかなど、どのようなスキンシップができているかについて考えなければなりません。そしてスキンシップの欲求がある程度満たされ、教師との信頼関係も築かれ、本人の関心が外界に向かいはじめたなら、子どものペースを尊重しながら、自立を促(うなが)すための手立てが有効になってきます。

子どもの成長にとって安心基地となる「母性」が何より大切です。そして次に、自立を促す「父性」が大切となってきます。母性のない父性だけの教育は、子どもの心を壊す危険があります。父性のない母性だけの教育は、子どもの自立心を十分に育てられません。

また、親子のスキンシップの有効な手段として、小学生頃までは、お風呂に一緒に入って楽しんだり、絵本を読んで聞かせたり、家族でトランプをしたりすることなどが考えられます。中学生になると、子どもの見ているテレビ番組を、大人と一緒に見て、子どもと雑談（たわいない楽しい話し合い）をすればよいのです。

#### (6) 『ドラえもん』の最終回？

ところで、マンガの『ドラえもん』は第6巻で一度終わっています。ドラえもんは未来の世界に帰ることになります。泣き叫ぶのび太に対し、父親は「ひとにたよってばかりいては、いつまでたっても一人前になれんぞ。男らしくあきらめろ」と言います。その晩、両親はドラえもんの送別会をします。夜中、寝つけないのび太とドラえもんは家の外に出、「ジャイアンやスネ夫にいじわるされても、やりかえしてやれる？」と心配するドラえもんに、のび太は「ばかにすんな！ ひとりでちゃんとやれるよ。やくそくする！」と応えます。そして公園で、のび太はジャイアンと2人きりでけんかをします。ジャイアンになぐられてもなぐられても、のび太は、「ぼくだけの力で、きみにかたないと-----。ドラえもんが安心して-----、帰れないんだ！」と向かっていき、ついにジャイアンに「悪かった、おれのまけだ。ゆるせ」と言わせます。朝、のび太が目をさますと、ドラえもんはすでにいません。「ドラえもん、きみが帰ったらへやががらんとしちゃったよ。でも-----すぐになれると思う。だから-----、心配するなよドラえもん」というのび太の心のつぶやきが、最後のコマです。

しかし、第7巻でドラえもんはのび太のもとに帰ってきます。そして『ドラえもん』は、子どもにとって夢をかなえてくれるマンガとして今も続いており、偉大なマンネリ作品として現代日本人の心に多大な影響を与えています。

## (7) おわりに

読者がよく知っていると思われるマンガの登場人物をもとに、子どもの心と大人の対応について述べましたが、そもそも『ドラえもん』や宮崎駿の『となりのトトロ』を見たことがない大人がいるとすれば、その人は教育に熱心だとしても、子ども文化を知らず教養に欠け、子どもの気持ちを理解できていないのではなでしょうか。

生徒の皆さんにとって、この文章が自分の生き方や人間関係で何かヒントになることがあれば幸いです。

同様に、保護者や教師たち大人にとって、子どもと向き合うときの何か参考になることがあれば幸いです。大人は自分が子どもだったことを、ぜひ思い出してほしいのです。

この文章をもとにだれかと話し合ってもらえればと願っています。できれば感想を、学校の先生やスクールカウンセラーに教えてください。

生徒、保護者の皆さんで、どのようなことでも結構ですから、スクールカウンセラーと話し合ってみたいと思われる方は、遠慮なく担任の先生か生徒指導担当の先生に予約を申し込んでください。相談内容の秘密は守られます。

平成13年3月 文：山下一夫